

夏目漱石顕彰

第30回「草枕」国際俳句大会

「草枕」の玉手箱

（入賞作品集）

The 30th International “Kusamakura” Haiku Competition
Prize-Winning Haiku Magazine

目 次

実行委員会委員	1
ごあいさつ	2
選者略歴	3
入賞作品と講評	
・事前投句一般部門	4
・インターネット投句部門	7
・ジュニア部門	9
・外国語部門	14
・写真俳句部門	20
・当日投句部門	23
くまもと俳句ポスト	26
大会風景	27
応募者都道府県別集計	28
応募者国別集計	29
大会を振り返って	30

第30回「草枕」国際俳句大会実行委員会委員

名誉会長	大 西 一 史	熊本市長
会 長	岩 岡 中 正	熊本大学名誉教授、日本伝統俳句協会名誉会長、「阿蘇」名誉主宰
副 会 長	西 川 盛 雄	熊本大学名誉教授、国際俳句協会会員
〃	福 永 満 幸	「水葱」俳句会主宰
委 員	石 櫃 仁 美	(一財)熊本市文化スポーツ財団理事長　【以下50音順】
〃 (監事)	岡 内 ゆりか	熊本市文化創造部文化政策課 課長
〃	小 野 友 道	熊本大学名誉教授、(一財)熊本市国際交流振興事業団理事長
〃	穀 本 純 二	くまもと写真俳句同好会代表、元熊本日日新聞社写真部長
〃	富 田 一 哉	熊本日日新聞社文化部長
〃	西 口 裕美子	「霏霏II」編集事務局長
〃	西 村 泰 三	「松」編集・発行人
〃	前 山 光 則	作家
〃	光 永 忠 夫	熊本県俳句協会会長
〃	村 田 由 美	草枕交流館館長
〃	山 口 孝 徳	熊本信愛女学院高等学校教諭
〃 (監事)	吉 村 隆 之	くまもと漱石倶楽部会長
事務局長	高 峰 武	熊本学園大学招聘教授

「草枕」の玉手箱～発刊にあたって

「草枕」国際俳句大会実行委員会名誉会長

熊本市長 大西 一史



本大会は、俳句を通じて熊本と世界を結ぶ架け橋として、平成8年の創設以来、30年もの長い歴史を刻んでまいりました。この節目を迎えるにあたり、これまで大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に、深く敬意と感謝の意を表する次第です。

さて、今大会には、国内外から6,800句を超える作品をご応募いただき、とりわけ、当日投句部門では400句以上、ジュニア部門には約2,700句、そして世界67か国から約1,200句の投句が寄せられるなど、俳句が世代や国境を越えて広がりを見せていることを大変嬉しく思います。ご参加いただいた皆様に、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

また、表彰式では「世界で愛される俳句 今なぜ地球俳句か」をテーマにシンポジウムを開催し、俳句が自然や他者との調和を象徴する言語として、世界に広がる意義を改めて考える貴重な機会になったものと存じます。

今回発刊する「『草枕』の玉手箱」は、入賞作品を収めるとともに、これまでの大会の歩みを振り返る記念号となっておりますので、俳句の魅力と大会の歴史を凝縮した一冊として、ご高覧いただければ幸いです。

皆様ご承知のとおり、令和8年に漱石来熊130年、令和9年に漱石生誕160年となる記念の年を迎えます。

本市としましては、これらを契機に、俳句をはじめとした漱石文化の振興と継承に、なお一層取り組んでまいりますので、皆様方におかれましては、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参加いただいた皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心より祈念し、発刊のご挨拶といたします。

選 者 略 歴

事前投句一般部門

岩岡 中正

「阿蘇」名誉主宰
(公社)日本伝統俳句協会名誉会長
『春雪』『相聞』『虚子と現代』他

高野ムツオ

「小熊座」主宰
(一社)現代俳句協会会長
『萬の翅』『片翅』『蟲の王』他

小川 晴子

「今日の花」主宰
(公社)俳人協会評議員
『花信』『摂津』『今日の花』

岸本 尚毅

(公社)俳人協会理事
「天為」「秀」同人
『雲は友』『小』『文豪と俳句』他

インターネット投句部門

西村 泰三

「松」編集・発行人
(公社)俳人協会評議員
『三郎塚』

福永 満幸

「水葱」俳句会主宰
『初鴨』他

ジュニア部門

西口裕美子

「霏霏II」編集事務局長
(一社)現代俳句協会会員
『群青い耳』

山口 孝徳

「霏霏II」所属
熊本信愛女学院高等学校国語科教諭

前山 光則

作家
『ふるさと球磨川放浪記』『ていねいに
生きて行くんだー本のある生活』他

光永 忠夫

「自鳴鐘」会員
熊本県俳句協会会長

外国語部門

井尻香代子

京都産業大学文化学部教授
京都府連句協会常任理事
『アルゼンチンに渡った俳句』他

米岡ジュリ

熊本学園大学外国語学部英米学科教授

西川 盛雄

熊本大学名誉教授
国際俳句協会会員
『漱石の英詩におけるポエティックス』
『俳句は国境を越えて』他

西槇 健

熊本大学大学院人文社会科学研究部教授
『中国文人画家の近代 豊子愷の西洋美術
受容と日本』他

写真俳句部門

穀本 純二

くまもと写真俳句同好会代表
元熊本日日新聞社写真部長

山下しげ人

ジュニア部門に掲載

山下しげ人

ジュニア部門に掲載

当日投句部門

井上 泰至

(公社)日本伝統俳句協会会長
防衛大学校教授

岩岡 中正

事前投句一般部門に掲載

小川 晴子

事前投句一般部門に掲載

西口裕美子

ジュニア部門に掲載

事前投句 一般部門

「草枕」大賞

慎みて原爆の日の塩むすび

小野 雅子 (滋賀県 栗東市)

地下水都市・熊本賞

一撃をくれたる野火の起き上がる

宮部 敏博 (愛媛県 大洲市)

二百十日賞

大阿蘇の懷にゐて涼しかり

高村 聖惠 (熊本県 合志市)

J A グループ熊本賞

肉体をむき出しにしてかたつむり

小林万年青 (秋田県 秋田市)

福井市賞

復興の城を一周夏つばめ

永利五十鈴 (福岡県 春日市)

松山市賞

本丸と二の丸繋ぐ蟬時雨

田代 幸子 (熊本県 宇土市)

特選

岩岡 中正 選

一穂の稻の花より千枚田

大川内みのる (熊本県 荒尾市)

入選

奔放に育つ山の子花かばちや

毛利 喜子 (愛媛県 内子町)

八月六日祈りても祈りても

上村 孝子 (熊本県 熊本市)

漱石忌万年筆の書き心地

寺本こう子 (熊本県 熊本市)

佳作

夏の雲また一人ヒーローが逝く

大津 夕可 (熊本県 熊本市)

蜩やひとり暮しの母のこと

松本よしだ (熊本県 熊本市)

柿若葉水を廻して桶洗ふ

安田眞葉子 (熊本県 熊本市)

プレス機も残業に入る西日かな

畠本 信行 (大分県 玖珠町)

百日紅かんかん照りの続く街

小柴 智子 (熊本県 宇土市)

選評

今回もたくさんの応募があつたこの部門のレベルは高かつた。「草枕」大賞は、原爆で亡くなつた人たちを悼んで食べる「塩むすび」の感触まで伝わる、ズシリと重みのある作品。「慎みて」の一語が、みごと。

地下水都市・熊本賞の句は、「一撃をくれたる」が、目に見える迫力ある写生の一語。二百十日賞の「懷にゐて涼しかり」の心理描写、J A グループ熊本賞の「肉体をむき出し」のリアルさ、福井市賞の「復興の城」と元気な「夏つばめ」のとりあわせ、松山市賞の「蟬時雨」のひろがりある写生が、どれも印象的だつた。私が特選に選んだ作品は、「一穂」と「千枚田」をみごとに取り合わせた力が、何より。阿蘇の豊かさを描き切つている。

小川 晴子

選

特選

阿蘇を抱く鄙に親しき燕来る

板倉

孝敬 (神奈川県 相模原市)

入選

山神の手のひら出づる瀑布かな
天高しガイドの訛り天守まで
カルデラの風の扉あけて小鳥来る

佳作

江津の湖ぐいと傾け田水張る

つのだともこ (熊本県 熊本市)

桐の秋町の名古き城下町

松村 直央 (東京都 世田谷区)

子には子の覚悟ありけり茄子の花

吉田 春代 (埼玉県 行田市)

可惜夜や星のまたたき蚯蚓鳴く

古賀久美子 (熊本県 熊本市)

藁素坊のふと目覚めけり春の潟

千田 道晋 (神奈川県 横浜市)

事前投句の一般部門の選者をお受けして毎年思うことは、俳句愛に満ちた質の高い応募句が多いという事です。今年は518人からいただいた1822句を選句しました。熊本は、世界でも最大級と言われる阿蘇山のカルデラ、「阿蘇五岳」、また祖母、汀女の生誕地「江津湖」と湧水、それに「天草」など、句材豊かな素晴らしい地です。私が頂いたのは次の句です。

〈松山市賞〉本丸と二の丸繋ぐ蟬時雨

田代 幸子

慶長十二年（1607）、茶臼山に加藤清正が名城「熊本城」を完成させて四百年です。熊本の人々の心の支えであり誇りであると共に、その暮らしの中心に「熊本城」があるよう見受けられます。お城の蟬時雨は止むことなく、本丸と二の丸を歩いている内に、自分自身が蟬時雨に溶け込んで無になる境地になられたことでしょう。お城の蟬時雨のすごさが伝わってきます。

〈小川晴子特選〉阿蘇を抱く鄙に親しき燕来る

板倉孝敬

阿蘇の火口原には約4万人が生活し、田畠が開け、国道、鉄道が通っています。十一月に訪れた折は観光客が増え、道も整備されていました。肥沃な土地に育つ野菜や、牧場などが目につきました。その様な暮らしやすい村の軒先には、毎年巣を作る為に燕が飛来するようです。住んでいる人たちも心待ちにしていることでしょう。水と空気の良い、安心、安全の村で燕たちはすくすくと育ちます。

岸本 尚毅

選

特選

星飛んで何処かの戦終らんと

梅津真佐子 (熊本県 熊本市)

入選

どてら着てこまごまとある植木鉢
谷間を防災無線秋の宿
修復や焼けたる石を積み直す

佳作

秋雷に県庁の松倒れけり
ポマードのてかり亡父の籐枕
大阿蘇の麓を巡る帰省かな

炎天下歩けよコキコキ人工骨
口髭に桃の匂ひの残りけり

事前投句の一般部門の選者をお受けして毎年思うことは、俳句愛に満ちた質の高い応募句が多いという事です。今年は518人からいただいた1822句を選句しました。熊本は、世界でも最大級と言われる阿蘇山のカルデラ、「阿蘇五岳」、また祖母、汀女の生誕地「江津湖」と湧水、それに「天草」など、句材豊かな素晴らしい地です。私が頂いたのは次の句です。

選評

特選「星飛んで何処かの戦終らんと」は現代の様相。複数の戦場があるから「何処か」という表現になる。「終らんと」は半ば願望であり、流れ星のかすかな光が世を照らす。

入選「修復や焼けたる石を積み直す」は城の修復と解した。「修復」の二文字が重い。「谷間を防災無線秋の宿」は現地の情景が想像される。「どてら着てこまごまとある植木鉢」は人物像が浮かぶ。

佳作「大阿蘇の麓を巡る帰省かな」は大きな構図の句。「炎天下歩けよコキコキ人骨」は「コキコキ」と「人骨」にユーモアとペーススがある。「口髭に桃の匂ひの残りけり」は口髭と桃の関係が艶っぽい。「ポマードのてかり亡父の籐枕」は亡父の人物像が彷彿とする。「秋雷に県庁の松倒れけり」は「秋雷」「県庁」という事実をそのままに叙したよろしさを感じる。多くの読み応えのある作品に出合えたことに感謝申し上げます。

高野ムツオ

選

特選

草笛を吹きて山河を呼び戻す

山本 淑子（熊本県 熊本市）

入選

田の神の触れてゆきたる稻穂かな
白南風にぐひと踏み込むペダルかな
ありのままそのまままでよし草の花

平川みどり
（熊本県 南関町）
真弓ほたん
（熊本県 熊本市）
渡辺あや子
（熊本県 菊池市）

佳作

ひまはりのどつと笑つてゐてしづか

寺崎久美子
（熊本県 熊本市）

万年の阿蘇の一と日の野火埃

角田 宏子
（熊本県 熊本市）

野に眠るみ霊の使ひ赤とんぼ

西山 恵二
（佐賀県 烏栖市）

静脈を探る針先風光る

松尾 光浩
（熊本県 山鹿市）

万縁の埋め残したる磨崖仏

土井 一正
（福岡県 太宰府市）

選評

草笛を吹きて山河を呼び戻す 熊本市 山本 淑子

草笛には回想の句が多い。かつて親兄弟や友人とともに吹き楽しんだ情景を懐かしく思
い出すからだろ。この句も同様の発想ではあるが、思い出したもののスケールが大きい。
自分を育んでくれた山河そのものだという。眼前の山河も記憶の山河に重なるものだが、
決して同じものではない。草笛の音に蘇る山河こそ、作者だけの本物の山河なのである。

大阿蘇の懐にゐて涼しかり 合志市 高村 聖恵

こちらも故郷讃歌であるが、「大阿蘇」という有名詞と「懐」という擬人的な言い
方が相乗して、母なる山河に抱かれている思いを伝える。

慎みて原爆の日の塩むすび 栗東市 小野 雅子

「慎みて」から作者の率直な追悼の思いが伝わってくる。今塩むすびをいただくことが
できるのも、先の大戦で犠牲になつた人々のお陰だという深い感謝の念が感じられる。「原
爆忌」ではなく、「原爆の日」であつて伝わる実感がある。

肉体をむき出しにしてかたつむり 秋田市 小林万年青

穀から体を思いつき伸ばし歩み始めた場面をあざやかに捉えた。生命感が溢れる。
他にも熊本の風土性や生活感に触れるができる作品がたくさんあつた。お礼申し
上げる。

西村 和子

選

特選

くつきりと紺青の嶺々涼新た

堀 伸子（熊本県 熊本市）

入選

噴煙の阿蘇を遠見に秋惜しむ
根もどより吹かるる髪も夏草も
天災も人災も越え城の春

芥川 竜人（愛媛県 西条市）
立川 六珈（大阪府 大阪市）
永見 徳代（東京都 台東区）

佳作

切り分けし猪肉 いまだ温かし

清水 明美（熊本県 八代市）

荒らしてはならぬ一心畑を打つ

守田 律子（熊本県 御船町）

枕辺にちらかる俳句明易し

勝又 洋子（東京都 目黒区）

野の馬の耳 よく動き秋の風

高橋 純子（神奈川県 藤沢市）

ささくれの引つかかりたる春ショール

渡邊三恵子（熊本県 熊本市）

選評

くつきりと紺青の嶺々涼新た 堀 伸子

新涼の大景を明快に描いたスケールの大きな作品。阿蘇の山々が思い浮かぶ。夏
とは違う澄んだ大気のと、雄大な光景が広がつてゆく。見慣れた山々であつても、
季節の発見は日々新しい。

噴煙の阿蘇を遠見に秋惜しむ 芥川竜人

「遠見」の一語で大景に奥行きが生じた。しかも噴煙にはゆるやかな動きが見える。
秋の終わりの季語によつて、あたりの草木の色まで見えてくる。

根もどより吹かるる髪も夏草も 立川六珈

風の強さを感じる句。「髪の根」という言葉があるが、強く吹かれる快感が伝わる。
たましい夏草も心地よいに違ひない。若草や秋草では強風に負けてしまいます。
天災も人災も越え城の春 永見徳代

やや観念的だが、熊本城を詠んだ句として心が止まつた。「春」に希望が托されて
いる。

インターネット投句部門

入選

人までも一色にして若葉風

吉田 達郎 (滋賀県 湖南市)

放下してつましき暮し目刺焼く

安田 功二 (東京都 北区)

じやあとしか言わぬ帰省子見送りぬ

坂田 淑子 (熊本県 熊本市)

特選

搾乳を終えて一服月涼し

武田 悟 (宮城県 涌谷町)

退院の夫へと傾ぐ日傘かな

岩水ひとみ (兵庫県 神戸市)

ミサイルが全部花火になればいい

大友 清晃 (熊本県 熊本市)

すれ違ふ香水にまだ君のこと

楠本シヨリ (長崎県 西海市)

新涼や雲はひと筆書となり

藤井 啓子 (兵庫県 神戸市)

耳澄まし花火楽しむベッド上

米田 裕喜 (熊本県 熊本市)

長堀の白の際立つ酷暑かな

田代 幸子 (熊本県 宇土市)

葛の花スイツチバツクすれすれに

石坂 博子 (熊本県 熊本市)

ひちひちのきびなごひちと裂かれけり

十一時二分のサイレン油蟬

千葉 文智 (岩手県 一関市)

真弓ばたん (熊本県 熊本市)

「草枕」読み説く教授肥後訛

余生いまこの地に在りて広島忌

吉田 潮 (熊本県 熊本市)

ひちひちのきびなごひちと裂かれけり

十一時二分のサイレン油蟬

千葉 文智 (岩手県 一関市)

選評

西村 泰三

大賞

じやあとしか言わぬ帰省子見送りぬ

素つ氣無い別れの光景です。が、上五の「じやあ」には口下手な帰省子・息子の親への感謝の気持ちが、下五の「見送りぬ」には無言の親の愛情が読み取れます。言外に溢れる親子の愛情を見させてくれた一句です。

特選

搾乳を終えて一服月涼し

こじんまりと搾乳業を営まれている方の平常の一日の終りを詠み取った句です。下五の描写で、句の光景を素直に脳裏に描くことが出来る一句です。

余生いまこの地に在りて広島忌

たつた十七文字でこれまでの人生を詠みあげた力量に感服しました。季語を漠然として絵に描けない「原爆忌」ではなく、「広島忌」とされたことで、具体的な光景を脳裏に描くことが出来、感動が強く伝わる一句になりました。

選評 福永 満幸

投句数は昨年よりも百句あまり多くて五百二十四句。日常詠が多く、選も楽しかった。

じやあとしか言わぬ帰省子見送りぬ

久方ぶりの帰省子。土産を置くなり、ごろんと横になつたかと思えば、起きて友人に会いに行く。聞きたいことが山ほどあるのに、帰るときも「じやあ」としか言わず、振り向きもしない。親の気持ちはいかばかりか。「しか言わぬ」見送りぬがよく物語っている。

「草枕」読み解く教授肥後訛

「山路を登りながら、かう考へた」これは「草枕」の書き出し。舞台が肥後熊本であるだけに、解説をする教授の肥後訛には親しみが湧く。それを端的に表していて、良い。

びちびちのきびなごびちと裂かれけり

獲れたばかりの「びちびち」のきびなごを、おそらく手開きで捌いているのである。新鮮この上ない。オノマトペが効いている。漢字が「裂」だけなのも良い。

放下してつましき暮し目刺し焼く
「放下」つまり一切の執着を捨て去り、質素な生活。目刺しの焼ける煙を眺めている。



※お問い合わせ先※

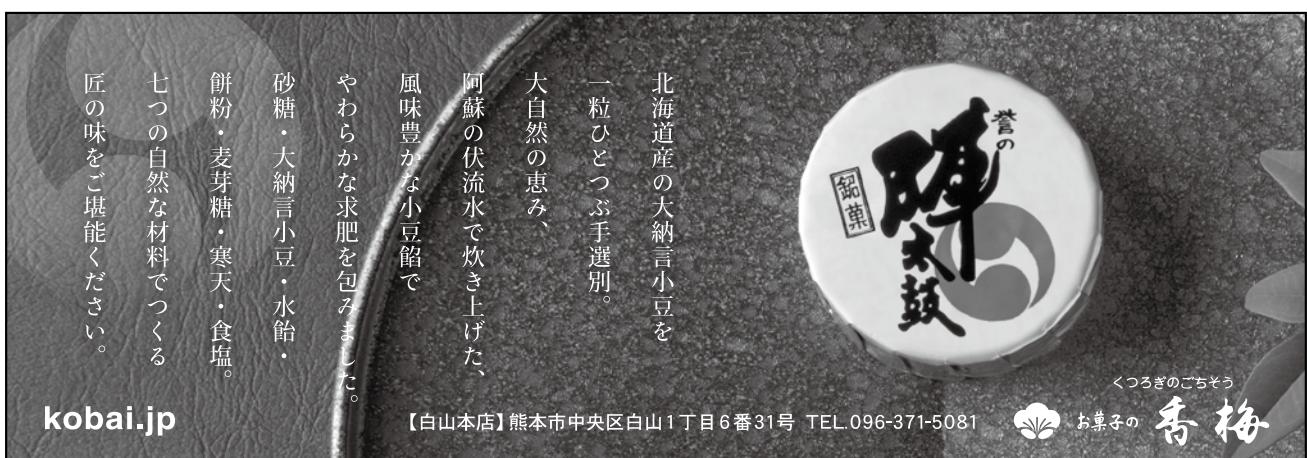
『松山はいく』事務局

所在地:
愛媛県松山市三番町3-9-3
K-13ビル5F
TEL:089-945-6445
受付:10:00~17:00

[松山はいく](http://matsuyamahaiku.jp)

正岡子規のふるさと・松山では、まち歩きの「ハイキング」と「俳句」をかけて名づけられた観光まち歩きガイド『松山はいく』が活躍中!!道後温泉や松山城以外にもお遍路体験をしながら石手寺を巡ったり、吟行句を地酒ラベルにしたりするなどオリジナリティあふれるコースをたくさんご用意しています。ご予算やお時間など、お気軽にご相談ください。

詳しくは、お電話又はHP:<https://matsuyamahaiku.jp>まで。



ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

宿題の終わつた後の蝉時雨

井上 横里

(埼玉県開智小学校四年)

中学生の部

麦茶飲む無言のままの背番号

西岡 徹

(熊本県熊本市立東町中学校三年)

高校生及び十八歳以下の部

百枚の銅鏡が出て月の谷

原島 奏

(東京都開成高等学校一年)

三四郎賞

一人つ子になりたい夜や髪切虫

島崎 結菜

(東京都学習院女子高等科二年)

西口裕美子選

特選

路地裏の朝顔ひとつ炎めき

川崎 千草

(東京都学習院女子高等科二年)

背伸びして葉桜の葉裏のざらり

田口 茉優

(東京都学習院女子高等科二年)

地球儀の日本は小さい入道雲

矢澤蒼一郎

(熊本県熊本市立壱川小学校五年)

じやんけんのあいこ続いて秋涼し

東風谷莉世

(東京都学習院女子高等科二年)

佳作

風鈴やふいに静かな午後三時

菅 詩荀

(東京都学習院女子高等科二年)

子ねこぶくぶくかいだんはのぼれない

若狭 早

(愛媛県愛媛大学教育学部附属小学校二年)

葉桜や母の返事に時差のある

本間まどか

(東京都学習院女子高等科二年)

町たんけんてんぼうだいからつゆの海

古市 一桜

(富山県高岡市立伏木小学校二年)

瓶ラムネぱんと始まる青い夏

北原 和佳

(熊本県熊本信愛女子学院高等学校二年)

蝉の声祖母から聞いたあの日の空

野口 琵月

(広島県呉市立昭和北中学校三年)

入道雲山より高く息を吐く

福原 仁子

(東京都学習院女子高等科二年)

夕焼けや今日という日をかき混ぜて

森田 結愛

(熊本県熊本市立東町中学校三年)

水ぶきは十おうふく目大そうじ

吉田辰二郎

(富山県高岡市立伏木小学校五年)

選評

今年特筆すべきは、高校生・18歳以下の応募数の増加だ。中でも、奥行きのある句世界に圧倒されたのが、大賞に選ばれた次の一句。

百枚の銅鏡が出て月の谷

（原島奏）

光と影、現実と幻想が静かに溶け合う、その構想力に驚くばかり。銅鏡と月がみごとに呼応し合っている。銅鏡の長い眠り。静謐な時の流れ。いく度も巡り続けた月を想う。なんて口マンチック。百は大袈裟な数字だが、煌々と輝く月の光に応じるにふさわしい。そこもまた詩的だ。この一句から受ける肌寒さは、時間と空間の意味を考えさせて余りある。

路地裏の朝顔ひとつ炎めき

（川崎千草）

路地裏に咲く朝顔の中の唯ひとつに惹きつけられた作者。これは、いのちの輝きの発見であり、またそこに死の存在を認める自分自身への感慨である。美しさは、痛み。その小さな疼きを発見し、その一瞬を大切に思えるこの作者のなんて素敵のこと。

背伸びして葉桜の葉裏のざらり

（田口栄優）

子ねこぶくぶくかいだんはのばれない
（若狭早）
こんなふうに17音の中に自分の世界を作る楽しさを知つてしまえば、今日が輝き始める。若い世代に心からエールを送りたい。

前山 光則 選

特選

浴衣着て誰より笑う夏祭り

北原 由逗

（熊本県玉名女子高等学校三年）

もうすこしでよみおわる本秋おわる

西多 晃都

（埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校二年）

しゅくだいをおいておとまりお正月

松山 陽

（富山県高岡市立伏木小学校四年）

新緑やドライブで行く沈下橋

高橋 桜奈

（広島県呉市立昭和北中学校三年）

佳作

ぼくはおにいとこをさがす一月の夜

ミランダイザキ

（富山県高岡市立伏木小学校四年）

日が照つて僕に頷く雪だるま

圓谷 紀秀

（熊本県熊本市立東町中学校三年）

入道雲実はお空の泣き笑い

西川 濃

（熊本県熊本信愛女学院中学校二年）

思い出がラムネのように溢れでる

守田 優愛

（熊本県学校法人文徳園文徳高等学校二年）

かき氷溶けるスピード恋みた

森本 心春

（熊本県玉名女子高等学校三年）

虫の音に返せぬ言葉沈みゆく

村岡 愛莉

（熊本県尚絅高等学校三年）

弟がつくし集める遠回り

村田 悅

（富山県高岡市立伏木小学校四年）

声小さい入学式の校歌です

黒木 悠真

（富山県高岡市立伏木小学校四年）

桜散る触れぬ手のひら夢のまま

高橋 亜実

（東京都学習院女子高等学校二年）

BBQBGMは蝉時雨

高橋 亜実

（東京都学習院女子高等学校二年）

選評

まず、特選作「浴衣着て誰より笑う夏祭り」に感心しました。浴衣を身に着けた時の気持ちが、「誰より笑う」と詠んでおり、嬉しさがたっぷりと伝わってくるのです。入選作の方では、「もうすこしでよみおわる本秋おわる」には読書好きな作者の気持ちが切実に出ていますし、「しゅくだいをおいておとまりお正月」からは、宿題よりも「お泊まり」を優先した作者の気持ちが伝わってきました。そして、「新緑やドライブで行く沈下橋」、これには、ドライブで「沈下橋」を渡る時の新鮮な愉しさが生き生きと表現されています。佳作の方も、「入道雲実はお空の泣き笑い」「思い出がラムネのように溢れでる」「かき氷溶けるスピード恋みた」等々、読んでいて愉しくなる作品が揃っていました。

そして、小学生の部の大賞作、「宿題の終わつた後の蝉時雨」、これはまことに秀逸。
夏休みの宿題をやり終えた時、蝉がさかんに鳴くのを聴いて深く心に沁みたことでしょう。

光永忠夫選

特選

淡月や囃子の影の伸びてをり

出口 雅人（和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年）

入選

雪ふめば子どものころに帰りけり

万尾 輿希（熊本県熊本市立力合中学校三年）

お正月書きぞめもやしねがいごと

高井 春妃（富山県高岡市立伏木小学校三年）

満月は車に乗つてもついてくる

野田 瑞乃（熊本県荒尾市立中央小学校六年）

佳作
星空に光輝く花火かな

高見 政晴（熊本県学校法人文徳学園文徳高等学校二年）

潮騒にひとり心をほどきけり

市瀬 麗奈（東京都学習院女子高等科二年）

紫陽花や滴る露アメジスト

歌野 愛夏（熊本県熊本信愛女子学院高等学校二年）

朝の聖歌セミも一緒に歌つてる

尾方妃和妙（熊本県熊本信愛女子学院高等学校一年）

まどろみの中まで響く蟬の声

下野 理央（東京都学習院女子高等科二年）

無機質な白を彩る寒椿

柳木 瑞子（熊本県熊本大学教育学部附属中学校三年）

かき氷いろどりどりのフレイバー

大年 結愛（広島県呉市立昭和北中学校三年）

夏休み何か始めてみたくなる

濱田 夏輝（熊本県熊本市立東町中学校三年）

選評

草枕大賞

☆小学生の部
〈宿題の終わつた後の蟬時雨〉

集中して宿題を終えた安堵と開放感。急に蟬の声が耳に入ってきたのです。

☆中学生の部
〈麦茶飲む無言のままの背番号〉

部活の風景。途中交代の悲哀かと思つたが三年生なので、これで引退かと、感慨無量になつた作者だ。

☆高校生および十八歳以下の部
〈百枚の銅鏡が出て月の谷〉

銅鏡は権威の象徴の財宝でもあり、一挙に百枚も出た古墳山の夜景であろうか。

☆三四郎賞
〈一人つ子になりたい夜や髪切虫〉

きりきりと髪切虫の昼ふかし
楸邨

という句がある。作者には妹が（おそらく複数の）居て、今日も湯上りの整髪をせがんだりして、つきまとつうのが今日は何故か疎まれるのであろう。

☆特選
〈淡月や囃子の影の伸びてをり〉

月光のなかの舞囃子の影という幽玄の情趣を捉えたのである。

☆入選

（雪ふめばこどものころに帰りけり）

いくつになつても雪を見ると嬉しくなります。（雪国の人よ、ごめんなさい）

（お正月書きぞめもやしねがいごと）

（どんどや（どんど 左義長）で燃やしています。ひらひらと舞い上つていきます。願いごとが叶いますように。）

後記

夏休みあけの提出で、宿題として作った人が多かつたと思います。テーマが夏に偏つてきます。できれば、ふだんからノートの隅でいいから少しづつ、作りためてみて下さい。できれば俳句専用のノートを作つて下さい。来年は、その中から、自信作が出せるといつも思います。たくさんの方の投句をありがとう。

つゆのみちたんばにしろいどりあるく

小澤 莉子（富山県高岡市立伏木小学校一年）

ダシルバマテウス（富山県高岡市立伏木小学校二年）

山口 孝徳 選

特選

未来まで見える気がした夏の空

西山 千織 (熊本県玉名女子高等学校二年)

入選

さやけしや丘から隣町も見え

上松 篤史

(和歌山県智辯学園和歌山中学校三年)

それ全て俳句に込めよと鶴頭花

三木陽菜子

(和歌山県智辯学園和歌山高等学校一年)

初鳴や搖れる水面の軌跡かな

前田 俊輔

(和歌山県智辯学園和歌山高等学校一年)

佳作

ラムネ瓶

杉谷

理華

(熊本県熊本信愛女子学院高等学校二年)

夏休み子の腹みたす備蓄米

亀田

侑那

(東京都学習院女子高等学校二年)

夕焼けに足の長さを競い合う

田山

聖陽

(熊本県芦北町立佐敷中学校一年)

弟と同じ消しゴム新学期

河本 美沙紀

(埼玉県開智小学校四年)

力ナヘビの名前を決めた夏休み

竹内 実珠

(埼玉県開智小学校四年)

わが犬のぬけ毛かたまり雲の峰

大坪 果暖

(熊本県熊本信愛女子学院中学校二年)

憧れの姉の引っ越し春浅し

吉澤 杏梨

(熊本県熊本大学教育学部附属中学校三年)

夏の空カーテン大きく深呼吸

浴野 恵美

(熊本県熊本大学教育学部附属中学校三年)

夜ごくらはおけしよライトにあたつてる

高岡 優翔 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

選評

今年もたくさんの小学生・中学生・高校生の皆様から力作を投句していただきました。これからも「今」皆さんのが見つめる世界をたくさん俳句に詠んでいただけたら嬉しいです。興味深かつた句をご紹介します。

ら嬉しいです。興味深かつた句をご紹介します。

島崎結菜

他者と比べられることが苦しく、もつと自由でいたい。そんな風に感じることは誰しもあるでしょう。作者は「一人っ子になりたい」という気持ちを嫌われ者(?)でちょっと取つつき難い髪切虫と重ねたようです。髪切虫のようにもう者を寄せ付けたくないという気持ちと他者からのアテンションを求める相反する気持ちの葛藤。思春期ならではの心の動きを髪切虫という季題を置くことで上手に詠んでいます。

未来まで見える気がした夏の空

西山千織

作者にとつてこの夏は自分と向き合い挑戦した熱い夏だったのだと思います。強い日差しの中、青が濃く、どこまでも広がっていく夏の空。そしてそれを見つめる作者が未来に心をときめかせている様子が伝わってきます。清々しい一句です。

山下しげ人 選

特選

原爆忌川にサイレンしずみけり

宮本 佳治

(熊本県熊本県立熊本高等学校二年)

入選

螢飛ぶ水の記憶に触れながら

吉田 桜

(東京都学習院女子高等学校二年)

ひつこしの朝です二重にじかかる

鶴 晴輝

(富山県高岡市立伏木小学校六年)

夏足袋で心機一転的を射る

古閑 友菜

(熊本県熊本信愛女子学院高等学校二年)

佳作

薰風や全力で持つ優勝旗

成松清十郎

(熊本県熊本市立出水中学校三年)

花火消え目の輝きはまだ残る

青春が終わる音した花火かな

大竹 雅人 (熊本県学校法人文徳学園文徳高等学校一年)

レシートの印字の消えて花は葉に

天野 七瀬 (熊本県熊本県立熊本農業高等学校二年)

新学期カバンの底の夏の砂

中村 心遥 (東京都学習院女子高等科二年)

数式に沈みし午後は炎暑消ゆ

八木みのり (東京都学習院女子高等科二年)

風吹いて見上げた先の夏燕

小山瑛利衣 (東京都学習院女子高等科二年)

人混みの隙間をぬつて見る花火

橋本 奈帆 (東京都学習院女子高等科二年)

真夏日に引き絞る弦鳴りひびく

小林 翼 (熊本県学校法人文徳学園文徳高等学校一年)

夏の果てへアクリップも色褪せる

坂本沙也花 (熊本県熊本信愛女子学院高等学校一年)

選評

一七五九名の投句を今回も楽しみながら選句させて頂きました。その中で特に素晴らしかった二句を紹介致します。

「草枕」大賞 中学生の部

麦茶飲む無言のままの背番号 熊本市立東町中学校 三年 西岡 徹

試合終了後かハーフタイムなのか、どんな競技なのかも全くわかりません。しかし、この省略によって「無言」の意味するところの大きさが読者にひしひしと伝わってきます。また、「背番号」に焦点を当てたことで、選手のまた荒い息遣いなど感じられます。また、「背番号」に焦点を当てたことで、選手のまた荒い息遣いなど感じられます。

山下しげ人 特選

原爆忌川にサイレンしずみけり 熊本県立熊本高等学校 二年 宮本佳治

広島と長崎では平和を祈念して原爆投下の日時にサイレンが鳴らされます。作者は、そのサイレンの音が水を求めて川で息絶えた人々の魂を慰めるレクイエムのように聞こえたのでしょうか。沈み行くサイレンの静けさに平和の祈念とともに戦争や原爆への怒りが伝わってきます。

株式会社九州伝播 事業紹介

近年、世界の経済に急激なグローバル化が進んでいます。株式会社九州伝播は2010年に立ち上げ、グローバル化の波に乗り、ニッチなマーケットのニーズを聞き入れ、製品を開発してきました。

会社設立当初には、くまモンの誕生と共に、くまモン縫いぐるみの設計、生産、販売を手掛け、くまモン人気の盛り上げに力を添えて来ました。

現在は主にLEDサイン、LEDサイネージなど、広告宣伝、交通信号用途の製品の開発、委託生産、販売を行っています。熊本中心街のCOCOSAビジョン、籠町ビジョンなどを手掛けました。



LEDを使用したこんな商品が欲しい、でもどこにも販売されていない、などの悩みがある時には是非声をかけて下さい。最善の解決策を作らせて頂きます。

どうぞ宜しくお願ひ致します。

住所：熊本市東区江津二丁目14-18

代表取締役： 徐 海涛

電話：090-6293-8689

Email：info@kyushu-denpa.com

外国語部門 Non-Japanese Section

草枕大賞 & 福田令寿賞

Kusamakura Taisho (Grand Prize) & Reiju Fukuda Award

famine

飢餓

empty pots spill

空の壺から溢れ出る

moonlight

月の光

Farah Ali
(United Kingdom)

地下水都市・熊本賞

Kumamoto 'City of Artesian Waters' Haiku Award

Nadan los cuervos

鴉は泳ぐ

en el mar de olas de oro,

金波の海を

trigal al viento.

麦に風

Miguel Ángel Calderón
Solís
(México)

特選 Tokusen (Second Prize)

intonation
a butterfly lands
on a guitar string蝶が
ギターの絃に留まって
際立つ韻きDarko Batan Zunjic
(Montenegro)Quiet river bends,
the heron folds its pale wings
into the twilight.静かな川の曲がり
鶴が黄昏に向かって
翼をたたむFaith Nyokabi Njunge
(Kenya)chess box
friends and foes after the war
laid side by sideチェスの箱
戦い終えて敵味方
仲よく列んで納まっているSrinivasa Rao Sambangi
(India)lightning
tip-toes hilltop
to hilltop雷鳴が
丘から丘へとひたひたと
渡りゆくLeo Lavery
(N.Ireland)the close of summer
my kokeshi dolls
don't age夏の終わり
私のこけしは
年取らぬDamir Janjalija
(Serbia)Manos curtidas
preparan la comida.
Arde el brasero.日焼けした
手の昼支度
火鉢燃ゆCatalina A. Buadas Porcel
(España.)

特選 Tokusen (Second Prize)

tras el incendio
en la tierra respiran:
flores violetas

山火事跡
地に息をする
董かな

diego martín rodríguez
(Argentina)

流浪汉
刚下过的雪的气味

バガボンド
降ったばかりの雪の匂い

Vladimir Aktov
(Russia)

入選 Nyusen (Third Prize)

leave her alone !
the touch-me-not
opens up

花は花
思いつきり開く姿の
鳳仙花

Lucky Triana
(Indonesia)

forest fires smoke
hiding the dark spots
on Gaia's lungs

森林火災の烟が
大地の女神の肺の
闇を隠す

Sandra St-Laurent
(Canada)

autumn breeze touching
moonlight on the still water
of a mountain lake

秋風が
山湖の水面の月影に
触れている静けさ

STEPHEN NORTON
(New Zealand)

a broken
robin's egg
Gaza sky

駒鳥の卵壊れてガザの空

Archie G. Carlos
(United States)

huddled together
under mom's umbrella
little mushroom family

ひしめき合って
母親の傘の下
小さな茸の一家族

Julie Schwerin
(United States)

war truce
children weave
daffodil garlands

休戦下
子供たちが水仙の
花輪を編んでいる

Daniela Misso
(Italy)

end of war -
snowflakes covering
the empty trenches

戦が終って雪が
誰もいなくなった塹壕に
降り積もって

Cristian Matei
(Romania)

入選 Nyusen (Third Prize)

after the battle...
looking for the other half
of her doll

戦い止んで,,,
人形のもう半分を
探している

Mariola Grabowska
(Poland)

migratory birds
if only children of Gaza
had wings

渡り鳥
ガザの子らにせめて
翼があれば

Aljoša Vuković
(Croatia)

muggy, grassy air
slowly moving jaw
of Akaushi

草むして
赤牛のどかに
顎動く

Kazuo Horinouchi
(Japan)

between the wings
of the windmill shadow sun
shadow sun shadow

風車の羽と羽の間
日陰日差し 日陰日差しと
周り巡る

Willy Cuvelier
(België)

stitching sand
into beach
sanderling feet

浜辺の砂に
縫い目を残す
いそしきの足跡

Lorraine A Padden
(United States)

firefly
my palms full
of gold

掌の中に螢の光る色

Luca Bobeica
(Romania)

mother's day
my shadow wrapping
her grave

母の日は
母の墓石を包む
我が影

Cristina Pietraru
(Romania)

The father's grave-
I water withered flowers
with wine

父の墓—
萎れた供花に
ワインを掛けて

Branislav Brzaković
(Srbija)

Levanta la niebla...
El movimiento lento
de la vieja vaca.

霧はれて
ゆっくり動く
老雌牛

Ana López Navajas
(España)

Entre grafitis
la hiedra se desliza
como quien reescribe.

グラフィティを
書き直すように
薦の這う

ENRIQUE ESTEBAN DE LA
CRUZ AGUILAR
(Perú)

入選 Nyusen (Third Prize)

Campo verde
Solo el portal en pie
del viejo cementerio

緑の野
門だけが立つ
古い墓地

Luis Plaquin
(Argentina)

Como por primera vez
la mosca choca
contra la ventana

初めての
ようにぶつかる
窓の蠅

Leandro Surce
(Argentina)

天邊一道長白線
稻草人在搖晃

空のかなたに長く白い線
案山子が揺れている

See Ai Li
(馬來西亞)

草枕大賞受賞者のコメント (Comment of the Grand Prize winner)

Farah Ali (United Kingdom)

My name is Farah, and I live in England in a small city by the sea called Brighton. I would like to apologize for being unable to attend the ceremony in beautiful Kumamoto and offer my gratitude to the staff and judges for their kindness, generosity and hard work in organizing such an elegant and prestigious competition.

I am honored to have won Kusamakura Taisho in the foreign language category—it is a dream come true, and I promise to continue to improve and work hard on my haiku. I have deep respect and admiration for Japan and the Japanese people and am happy that haiku has forged a connection between us even though we live on opposite sides of the world.

I write and read haiku almost every day and when my daughter is old enough I hope she will love haiku too. When it is not raining my favorite places to write are on long walks by the seashore and in my small garden where I grow trees, flowers, fruit, vegetables and herbs.

The suffering in Gaza, Palestine, has hurt my heart. This haiku was written after I saw images of injured, starving adults and children waiting for hours even though there was no food left. I could not stop thinking about those empty pots and the innocent hands holding them. But famine and food insecurity are not only isolated to conflict zones. Many people all over the world do not have enough to eat and my haiku is also dedicated to them.

As a mother I pray for a world where no child goes to sleep hungry. As a human being I pray for a world where every man, woman and child can live in peace, free from tyranny and oppression.

Thank you so much for your time and consideration.



私はファラー・アリと申します。イギリスのブライトンという海辺の小さな町に住んでおります。熊本での素晴らしい授賞式を組織して下さった大会関係者、選者の皆様のご親切、寛容心、ご苦労に対して直接感謝の意をお伝え出来ないことをお詫びいたします。

このたび夢がかない、外国語部門の草枕大賞を得ましたことを誇りに思い、今後も精進して自らの俳句の力を進化させることをお誓い申し上げます。私は日本という国と人々に深い尊敬の心を持っております。そして私たちは地球の反対側に住んでいるとはいえ、俳句が私たちを結び付けていることを嬉しく思っております。

俳句については私はほとんど毎日読んだり創ったりしております。娘が十分に大きく成長したら俳句を好きになってくれることを願っています。雨の降らない日、私は海岸線を歩いたり、木、花、果物、野菜、ハーブなどを育てている我が家小さな庭先で好んで句作をしております。

ガザやパレスチナの人々の苦悩には胸が痛みます。この俳句は負傷したり飢えた大人や子供たちが食料が無くなっているにも関わらず何時間も待つ人々の映像を見た後にできたものです。私は空っぽの容器とそれを握りしめている無垢な人々の手について思ひざるを得ませんでした。飢餓や食料不足は紛争地域だけに限りません。世界には食物が充分行きわたっていない処が多いのです。今回の私の俳句はこのような人々に対して捧げられたものです。

一人の母親として私は子供が飢餓状態のまま眠ることがないことを祈るばかりです。人間としてすべての男性、女性、子供が専制と抑圧から自由になり、平和に暮らせるようになることを祈っています。

この度はこのような時とご配慮を与えて下さり、感謝申し上げます。

(西川盛雄 訳)

Comment 講評

Judy Yoneoka 米岡ジュリ & Morio Nishikawa 西川盛雄 (English 英語)

First of all, many congratulations to the Kusamakura Haiku Contest on reaching the significant milestone of 30 years, and to its organizers and entrants this and every year. It is all of you who bring this contest alive, and keep us in touch with the poetry of the earth.

Every year in early October, I look forward to meeting with the celebrated Professor Nishikawa Morio to share our opinions and ideas on the crop of English haiku that have come our way. This year, we agreed almost immediately that many of the 962 English language entries (from 511 entrants of 57 countries) were exceptional and that we had a very difficult choice on our hands. Each with our own lists in hand, we had the grand prize winner within the first half hour. Quickly the prize winners added up as we each selected our personal favorites, with several left on both of our lists that sadly ended up prizeless.

In 2023, the top six nouns were sky, night, moon, rain, sun, and summer. This year, the top six were sky (again #1), rain, moon, summer, night and leaves. What skies do the people of the world look up at? The collocations were telling: in addition to blue, there were orange and amber skies, and dark or darkening dusk skies. Hot, bright summer skies and vast, endless, empty evening skies. Overcast, drowned, starlit and Gaza skies. Each of these skies brings a personal context to a shared human experience, as do haiku around the world.

まず草枕国際俳句大会が30年という節目の年を迎え、毎年ながら、今年もまた関係者や投句者に対して祝意を申し上げたい。そして皆様のご尽力によってこの大会が命脈を保ち、世界中の詩に繋がることになります。

毎年10月はじめに審査結果の意見を交わしますが、本年度英語部門は57か国511人による962句の投句があり、例がないほど多くの投句数があり、難しい選になりました。大賞選出の後他の賞が決まりますが、選に入らなかつたものでも良い句が多くありました。

今年度、投句中頻度数の多かった語は「空」「夜」「月」「雨」「太陽」「夏」の六つでした。人々はどのような「空」を見つめるのでしょうか? 例えれば慣用語としては「空」といえば青ですが、他に橙色や琥珀色の空、さらに暗い空、または早朝の薄暗い空がありました。日差し明るい夏空、果てしなく広い夕刻の空があり、どんよりと陰鬱な空、星空、ガザの空もありました。それぞれの空はまずは個人的な文脈に依るものですが、これが作品として共有され、広く人類の経験となります。それはちょうど俳句が世界に対して果たす役割と同様のものとなります。

Kayoko Ijiri 井尻香代子 (Spanish スペイン語)

La sección en lengua española recibió este año 215 obras procedentes de 18 países. En el proceso de la selección solo se tuvieron en cuenta las obras, ocultando los nombres de los autores y sus regiones de procedencia. Afortunadamente las obras ganadoras son de diversas regiones, como México, España, Argentina y Perú. Creo que esto refleja una amplia cobertura geográfica. Se puede percibir la naturaleza y el modo de vida de cada región.

La obra galardonada con el «Premio Kumamoto» combina un trigal ondulado con olas doradas al viento con cuervos. Al mencionar cuervos y trigal, algunos inmediatamente recuerdan las pinturas de Vincent van Gogh. Estas pinturas fueron creadas poco antes de su muerte, lo que ha dado lugar a interpretaciones de presagio siniestro o desesperación, aunque algunos críticos encuentran en ellas esperanza de renacimiento. Los cuervos, aves comunes en la vida cotidiana, han aparecido en haikus de muchos poetas, entre ellos Takahama Kyoshi y Kobayashi Issa. En la obra del Premio Kumamoto, los cuervos nadan a través del trigal. Tanto los cuervos nadando como el trigal ondulando al viento crean una escena vívida y dinámica. Si bien las obras con trigales de Van Gogh son sin duda obras maestras memorables, este haiku en español es también una obra maestra, que captura vívidamente el color y el movimiento dentro de su estructura de 5-7-5 sílabas.

今年のスペイン語部門には18カ国から215作品の応募がありました。当然ながら審査の際には作品だけを対象にし、作者名も地域も伏せられているのですが、幸いなことに入賞作品には、メキシコ、スペイン、アルゼンチン、ペルー等、様々な地域からの応募作品が並びました。地域的な広がりも反映されたのではないかと思っています。それぞれの地域の自然や人々の生活が感じられます。

「熊本賞」の作品は、風を受けて金色の波を立てる麦畑と鶴を取合せています。鶴と麦畑といえば、すぐにフィンセント・ファン・ゴッホの作品を思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれません。これらのゴッホの絵画は亡くなる前に描かれたので、死の予兆や絶望といった解釈もあり、再生への希望を見いだす批評家もいます。鶴は生活に身近な鳥として高濱虚子や小林一茶など多くの俳人に詠まれています。「熊本賞」の作品では、鶴は麦畑を泳いでいます。泳ぐ鶴と風に波立つ麦畑がどちらも生き生きとしたダイナミックな情景を描き出します。ゴッホの麦畑も印象深い名作ですが、このスペイン語ハイクも五七五の音節の中に、色彩と動きを鮮やかに捉えた名作です。

Isamu Nishimaki 西檜偉 (Chinese 中国語)

2025年有八個国家和地区的13位作者參賽，作品總數22。特選作為「流浪漢／剛下的雪的氣味」，入選作為「天辺一道長白線／稻草人在搖晃」。

特選作品以剛下的雪的氣味來描写流浪漢，雪的氣味微乎其微，但讓人興奮。雪下起來會感到寒冷，然而那種新鮮感用語言難以表達。過一段時間，積雪會溶化，雪的氣味就和泥土混合。所以，剛下的雪有一種獨特的魅力，也正是不期而來却不會長久停留的流浪漢的魅力。

松尾芭蕉的俳句「馬をさへながむる雪の朝かな」（連馬也好看早上下起雪來——拙訳）、「箱根こす人も有らし今朝の雪」（有人要翻過箱根山去早晨這樣的雪——同）和劉長卿「柴門聞犬吠、風雪夜歸人」等詩句描繪雪中之旅，東亞文學中不乏由雪而聯想行旅的作品。特選作的作者為俄國人，讓我們對俄國文學中雪的意象感興趣。

這次參賽作品中，與以前相同，漢俳最多，其次為華文俳句，還有一些三行短詩。比如，「拉開窓帘，／讓陽光照見／我掛滿淚痕的臉。」這首詩，語言通俗易懂，却具有詩的韻味。

文学是可以加深我們的相互理解的，希望華語圈更多俳句愛好者來參加草枕國際俳句大會。

令和7年度は、8か国、地域から13名の方が計22作品を寄せてくださいました。特選に「流浪漢／剛下的雪的氣味」（バガボンド／降ったばかりの雪の匂い）、入選に「天辺一道長白線／稻草人在搖晃」（空のかなたに長く白い線／案山子が揺れている）を選ばせていただきました。

特選作は、一所不在の男を降ったばかりの雪の匂いに結び付けた句です。雪の匂いはそこはかとなく、非日常的で、心惹かれます。雪が降り出すと一層寒く感じられるけれども、降ったばかりの雪は初々しく、その匂いは曰く言い難いものです。降り積もって、そのうち溶けだすと土や泥の匂いが混ざります。つかの間のフレッシュさがまさにバガボンドの持つ魅力と思われます。雪に旅を連想する俳句に、芭蕉の「馬をさへながむる雪の朝かな」や「箱根こす人も有（ある）らし今朝の雪」、漢詩にも「柴門犬の吠ゆるを聞き、風雪夜に帰る人」（劉長卿「雪に逢ひ芙蓉山の主人に宿す」）などが思い出され、東アジアの表現にルーツがあります。作者はロシア出身のようで、ロシア文学から「流浪漢～」の句がどのように読めるのか、気になります。

今回の応募作には、漢俳が最も多く、それに次いで二行からなる華文俳句、そのほかに三行の短詩などもありました。たとえば、「拉開窓帘，／讓陽光照見／我掛滿淚痕的臉。」は平明な言葉を使っていながら、脚韻を踏み、見事な短詩となっています。

次回はもっと多くの方に応募をしてほしいと思います。この国際俳句大会によって、相互理解の輪がもっと大きく広がることを切望してやみません。

写真俳句部門

「草枕」大賞

井上真知子 (福岡県 宗像市)



直線と微分積分虹の円

特選

木下 保之 (熊本県 熊本市)

諄いをさらりとねう秋の空



岩下 信興 (熊本県 熊本市)

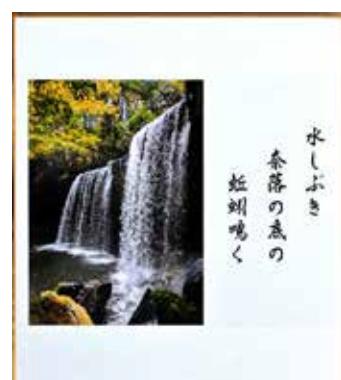
静りゆく
潜む仏大
風涼し



優秀賞

清海 宏 (熊本県 熊本市)

水しぶき
春落の底の
虹蝶鳴く



志賀 孝子 (熊本県 大津町)

東椅子
いと日
秋野の
音になる

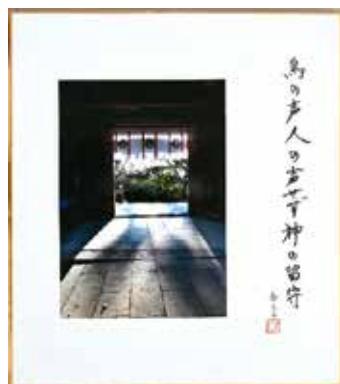


猿渡 彰 (熊本県 菊陽町)

鳥立て入り
ほどぞく



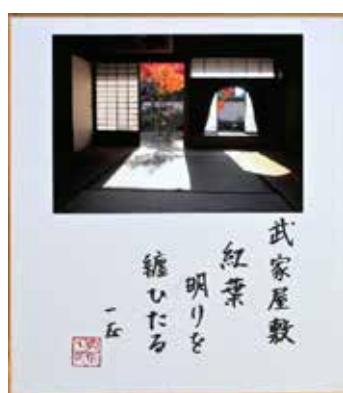
山上湖



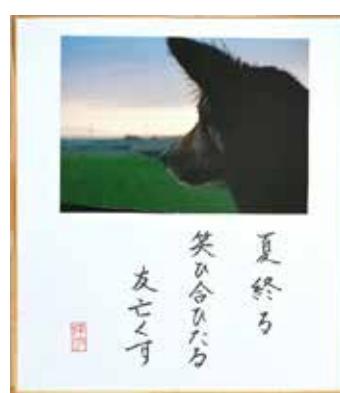
後藤希久子（熊本県 熊本市）



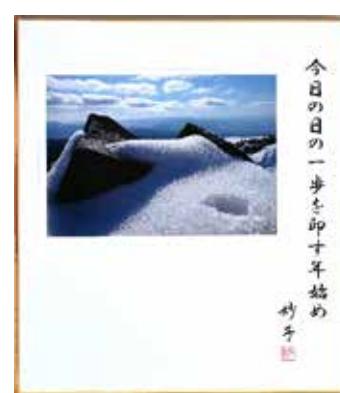
高塚 太喜（長崎県 謙早市）



内田 一正（岡山県 岡山市）



田代 洋子（熊本県 合志市）



相馬 妙子（熊本県 熊本市）



中村 康子（熊本県 熊本市）



有田 桜（11歳）（熊本県 八代市）



山戸 節代（熊本県 熊本市）



村田 健一（熊本県 熊本市）



恵 玄一郎（熊本県 合志市）

選評

【総評】

写真俳句の面白さは写真と俳句が響き合い、より重層的で広がりのある表現が出来ることにあります。審査はこのような観点から行いました。

今回は36人・86点の応募でした。深みのある作品が多くなっている一方で、写真と俳句が単に説明するだけの関係になつていては依然として半数以上ありました。個別評は次の通りです。

【大賞】井上真知子さん 直線と微分積分虹の円

評||一見すると静かな印象を受ける消防出初式の写真ですが、俳句と響き合い新年の華やいだ空気感が伝わってきます。微分積分という捉え方に新味があり、放水の揺らぎや虹の変化が想像できます。

【特選】木下保之さん 謹いをさらりと払う秋の空

評||未来へ向かう清々しさを感じます。国同士の謹い事も払つてくれないかとの思いが込められているのかもしれません。青空に向かつての遠近法が効いています。

【特選】岩下信興さん 静けさに潜む仏や風涼し

評||「足るを知る」という言葉がぴたりの、心穏やかな作品です。朝風と静謐のなか、蓮の花が開いていく様に「仏の存在」を実感されたのでしょう。

【優秀賞】清海宏さん 水しぶき奈落の底の蚯蚓鳴く

評||ある意味では単調な滝音の中にあって、己一人の内省的な思いが伝わってくる作品です。

【優秀賞】志賀孝子さん 車椅子ひと日秋野の客になる

評||開放感に溢れています。不自由な身なればこそ、自然と一体となつたその思いが強烈だつたのでしょう。

穀本純二・山下しげ人

【優秀賞】猿渡彰さん ほととぎす鳴きて一人の山上湖

評||孤高あるいは孤独感が、ひしひと伝わってきます。作者の心に、ほととぎすの声が沁みわたり「一人」を実感されたのでしょう。

【入選】

高塚太喜さん 囲炉裏端コキリコ踊り地酒呑む

評||雪国の冬の情感が膨らみます。ただ、写真が少しおとなしい。

後藤希久子さん 鳥の声人の声せず神の留守

評||情感は伝わります。写真に季節感がないのが惜しまれます。

相馬妙子さん 今日の日の一步を印す年初め

評||写真は見事です。ただ、俳句とのズレを感じます。

田代洋子さん 夏終わる笑ひ合ひたる友亡くす

評||彼方を見つめるがごとき犬に、作者の思いが重なります。

内田一正さん 武家屋敷紅葉明りを纏ひたる

評||凜とした空気感があります。ただ写真と俳句がつきすぎです。

中村康子さん 行く春や孫に聴かせるかぐや姫

評||写真も俳句も素直ですが、定番的な印象があります。

有田桜さん 喫茶店レトロな気分夏休み

評||写真も俳句もストレートで、力強さがあります。

恵玄一郎さん 色々の夢飛び上がれ子供の日

評||子どもの夢が舞い上がるというで楽しいです。

村田健二さん 幾たびの災禍ひるまず城は秋

評||復興への気概を感じます。写真に秋の季節感が欲しいです。

山戸節代さん 病む姉のベッドの向きに春の窓

評||写真の季節感は見事ですが、俳句が少しほやけた感じです。

当日投句部門

「草枕」大賞

大いなる虫籠となる阿蘇の原

田中よしえ（熊本県 嘉島町）

中村汀女賞

黄落の城を真中にある生活

頓田スミ子（熊本県 熊本市）

地下水都市・熊本賞

まだ残る城の足場に秋いくつ

松本よし枝（熊本県 熊本市）

（一財）熊本市文化スポーツ財団賞

職退きて妻に大根を買つて来る

矢澤 幸乃（熊本県 熊本市）

種田山頭火賞

我が内に紅葉灯して帰りけり

中西千鶴子（熊本県 熊本市）

熊本の銘菓賞

真白とて褪めてゆくもの障子貼る

廣瀬 守世（熊本県 熊本市）

特選

井上 泰至

選

漱石忌三角に切るハムサンド

轟 真理子（熊本県 熊本市）

入選

藻畠に水青々と初鴨来

嶋田 光子（熊本県 熊本市）

練切の蕊の薄紅漱石忌

真弓ほたん（熊本県 熊本市）

眼裏に秋天の城收めけり

堀田 毬子（熊本県 熊本市）

佳作

秋の灯や湖に汀女と虚子の句碑

榎木 俊彦（熊本県 熊本市）

黄金雲浮かみて今し神の旅

上野久美子（熊本県 熊本市）

ハーンの写真横顔にすす冬日

鞠子ミサヲ（熊本県 八代市）

あつさりと一人の夕餉石落の花

橋本 智子（熊本県 熊本市）

一燈を灯してよりの夜長かな

安田真葉子（熊本県 熊本市）

選評

漱石忌三角に切るハムサンド

轟真理子

漱石は胃が悪いのに食い意地が張つていて、結局食べ過ぎて亡くなつた。滑稽の俳人として子規からは折り紙付き。料理ともいえない「ハムサンド」を丁重に切る可笑しさに、漱石のユーモアと通じるものがある。

まだ残る城の足場に秋いくつ

松本よし枝

熊本城の復興はまだ先がある。「足場」というモノに単純化したのが成功の要因。

「秋」には「春秋」の含意があつて、長い時の流れを意味するが、盛りを過ぎた「秋」のイメージが繰り返されるところに、癒えない哀切がただよう。

真白とて褪めてゆくもの障子貼る

廣瀬守世

「白」にもいろいろなイメージがある。ここは真新しい更新の意味。しかし、たちまちその「白」は命を失つていく。それを「もの」で単純化する点には、單なる言い回しでなく、障子の「白」を惜しむ強い感受性が潜んでいる。

岩岡 中正 選

特選

ほのぼのと句縁ありけり菊日和

木村佐恵子（熊本県 熊本市）

入選

名月に名城緩びなかりけり

岩下 律子（熊本県 熊本市）

幾度も潜りて鳩の向う岸

伊藤 広子（熊本県 熊本市）

湖に今初鴨といふ光

平川みどり（熊本県 南関町）

佳作

霧飛ぶや谷の底ひの綾湯の灯

力 幸子（熊本県 菊陽町）

茶の花や真白き母の割烹着

さとうともこ（熊本県 御船町）

小鳥来る小学校の合唱団

渡辺あや子（熊本県 菊陽町）

石人のまばたき一つ返り花

山村 恵子（熊本県 玉名市）

家々に届く峡の日柿すだれ

池田 道子（熊本県 熊本市）

選評

「草枕」大賞作品は、阿蘇草原を大胆に「大いなる虫籠」ととらえたところに、豊かな詩情があり、童話的でもある。

中村汀女賞の句は、一面の「黄落」の真中に城を置いた構図の大きさ、地下水都市・

熊本賞の句は、城の「まだ残る足場に秋」を見た詩情、熊本市文化スポーツ財団賞

の句は、「職退きて」と「大根」のとりあわせの妙、種田山頭火賞の句の「我が内」に「紅葉」を灯す詩情、熊本の銘菓賞の障子の句のたしかな写生と詩情に感動をおぼえた。

私が特選に選んだ作品は、いかにも和やかな句会風景。「菊日和」が明るく楽しく、まさに「句縁」とはかくありたいと教えてくれる。

小川 晴子 選

特選

くまモンは人食はぬもん冬日和

松村 直央（東京都 世田谷区）

入選

秋高し湯だまり蒼き阿蘇火口

永田 証真（熊本県 熊本市）

城垣へ食ひ込む根方冬に入る

松本オハナ（熊本県 熊本市）

初鴨に江津湖の水の奔りだす

大川内みのる（熊本県 荒尾市）

佳作

日の色の仔牛の和毛野の小春

古賀久美子（熊本県 熊本市）

あをあをと冬草映す濠しづか

岡本 和子（宮崎県 高鍋町）

木の葉雨目つむりて聞く森の声

栗津 玲子（熊本県 熊本市）

江津湖畔茶の花垣のつづく家

三川 幸子（岡山県 岡山市）

瑞穂の国に女性総理来秋高し

下津可知子（千葉県 浦安市）

選評

〈中村汀女賞〉

黄落の城を真中にある生活

頓田スミ子

毎日の暮らしがお城を真中にしているなんて、羨ましい限りです。特に銀杏の多いお城の黄落は見事でしようと想いを馳せています。世界のどこかで戦争の絶えない日々です。大地震、大雨を乗り越えてきた平常の日々の暮しが大切であり有難いことと切に思います。

くまモンは人食はぬもん冬日和

松村直央

くまモンは十五歳の誕生日を迎えたそうです。ご当地の人気者は今や日本中に大勢のファンが居ます。一方今年は本物の熊が人里に降りてきて、死傷者が出ています。この句は、今年の世情をユーモラスに詠んでいます。リズムも良いですね。熊も山に帰つて早く落ち着いた世の中になつてほしいです。

西口裕美子

選

特選

吾亦紅母より父を哀しめり

吾亦紅
(大分県 国東市)

入選

茶の花や妣の飴色鯨尺

梶山 純子
(熊本県 熊本市)

天守へと曲りて登る若葉風

猿渡 彰
(熊本県 菊陽町)

仏像のもののふめきて秋の風

藤井 久子
(熊本県 熊本市)

佳作

炯眼のまま冬蜂の落ちてをり

大津 夕可
(熊本県 熊本市)

ジヨバンニへ渡さうと思ふ竜の玉

上田 輝子
(熊本県 菊陽町)

残菊に雨脚何とやはらかく

吉田 潮
(熊本県 熊本市)

一山の風となりゆく鹿の声

高村 聖恵
(熊本県 合志市)

花の名にふーんと答ふ秋日和

永田 四郎
(熊本県 熊本市)

今回の大賞句の魅力は、壮大かつ清澄な世界を虫籠という比喩を使って表現した点。
 大いなる虫籠となる阿蘇の原 (田中よしこ)
 小さな虫たちのいのちが、圧倒的なエネルギーを秘めた阿蘇にやさしく包まれている。上五「大いなる」がこの句の核心。「大きな」では阿蘇の存在感、神々しさを表しきれない。秋の阿蘇。火の山阿蘇の草原に佇てば、風に乗って虫の声。五感を解放して全身で味わいたい一句である。

スケールの大きな右の句とは対照的な特選句。今の私の気持ちとぴったり重なった。つぶやきのような句だが、これもまた俳句の魅力だ。

吾亦紅母より父を哀しめり
(吾亦紅)

父という存在の哀しみに、今静かに気付く。父の孤独、優しさと不器用さ。母よりもいつそう父を哀しんでいることに気がついた作者のしみじみとした悲しみ。眼裏の父を想うとき、控えめな吾亦紅が秋風の中で揺れている。

医療法人博麗会



のぐち皮ふ科

理事長 野口 博光
院長 久保 正英皮膚科
形成外科

〒861-3106

熊本県上益城郡嘉島町上島 964-1
(嘉島町役場斜め前)

TEL.096-237-4112

FAX.096-237-4113

URL. <https://nogcli.jp/>

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～ 12:30	●	●	●	●	●	●
14:30～ 18:00	●	●	●	休	●	休

令和六年 第二十六期開函

「霏霏Ⅱ」編集事務局

西口 裕美子 選

特選

その中に要抱く羅漢冬ぬくし 熊本県合志市 高村 聖恵

【講評】

雲巖禪寺から靈巖洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見る事ができる。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこそこに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」要を抱いたように見える羅漢様は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一旬。

わが輩通り賞

阿蘇五岳表も裏も小六月

熊本県熊本市 佐藤 誠吾

入選

コーラスの声澄む城趾球漫忌
猫座る漱石の家秋深し
西南の役の彈痕秋暑し

熊本県熊本市 山崎 綾子
熊本県熊本市 小山 稔子
岐阜県岐阜市 笠井 智子

佳作

蝉時雨八雲呼び立てる如く
冬日さす城の長堀鳩群れて
錦秋や小国に博士の顕微鏡
父の来し道をたどりし秋の島
名月に濡るる天守の甍かな
空港へ送り届けて夏終る
秋麗の旧居の庭猫闇歩せり
彼岸花に誘われ植木の湯に一日
吾になほ空蟬剥がす力あり
赤とんぼ息子を想う水前寺

熊本県熊本市 矢野 友子
熊本県熊本市 坂口 美穂子
熊本県熊本市 後野 陽
山梨県南都留郡 志賀 奈都
熊本県熊本市 芥川 韶
熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
熊本県宇城市 守屋 紀生
広島県広島市 横谷 昌子
福岡県春日市 柳田 孝裕

令和七年 第二十七期開函

「ホトトギス」同人 山下 しげ人 選

特選

大阿蘇の地軸ゆすつて野火猛る 熊本県熊本市 佐藤 誠吾

【講評】

数週間にわたって行なわれる阿蘇の山焼きは、火の国熊本に春を告げる一大風物詩です。古代より続いている山焼きを目の当たりにすると誰しも言葉を失うほどの感動を覚えます。音を立て風を巻上げながら奔る野火を「地軸ゆすつて」と表現したことで壮大な阿蘇の山焼きと作者の感動の大きさが素直に伝わってきます。

わが輩通り賞

漱石の庭の夏木に天氣雨

東京都国分寺市 神野 純

入選

夕暮れの水路に翡翠滑り来る
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む

熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 野白 仁美
熊本県熊本市 坂口 美穂子

佳作

四時軒にけふは水馬訪ねけり
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む
亡き友や姿探しして梅畠
美少年瞳の奥の散る桜
春泥や十五で散つた田原坂
田原坂義に落ちゆくは桜かな
緑さすかの日も同じ田原坂
為朝の伝説の山鳥帰る

熊本県熊本市 後野 陽
熊本県熊本市 永野 偉大
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
愛知県蒲郡市 守屋 紀生
宮崎県宮崎市 横谷 昌子
熊本県熊本市 柳田 孝裕

令和六年 第二十六期くまもと俳句ポスト

「霏霏Ⅱ」編集事務局

西口 裕美子 選

特選

その中に要抱く羅漢冬ぬくし 熊本県合志市 高村 聖恵

【講評】

雲巖禪寺から靈巖洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見る事ができる。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこここに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」要を抱いたように見える羅漢様は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一旬。

わが輩通り賞

阿蘇五岳表も裏も小六月

熊本県熊本市 佐藤 誠吾

入選

コーラスの声澄む城趾球漫忌
猫座る漱石の家秋深し
西南の役の彈痕秋暑し

熊本県熊本市 山崎 綾子
熊本県熊本市 小山 稔子
岐阜県岐阜市 笠井 智子

佳作

蝉時雨八雲呼び立てる如く
冬日さす城の長堀鳩群れて
錦秋や小国に博士の顕微鏡
父の来し道をたどりし秋の島
名月に濡るる天守の甍かな
空港へ送り届けて夏終る
秋麗の旧居の庭猫闇歩せり
彼岸花に誘われ植木の湯に一日
吾になほ空蟬剥がす力あり
赤とんぼ息子を想う水前寺

熊本県熊本市 矢野 友子
熊本県熊本市 坂口 美穂子
熊本県熊本市 後野 陽
山梨県南都留郡 志賀 奈都
熊本県熊本市 芥川 韶
熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
熊本県宇城市 守屋 紀生
広島県広島市 横谷 昌子
福岡県春日市 柳田 孝裕

令和七年 第二十七期くまもと俳句ポスト

「ホトトギス」同人 山下 しげ人 選

特選

大阿蘇の地軸ゆすつて野火猛る 熊本県熊本市 佐藤 誠吾

【講評】

数週間にわたって行なわれる阿蘇の山焼きは、火の国熊本に春を告げる一大風物詩です。古代より続いている山焼きを目の当たりにすると誰しも言葉を失うほどの感動を覚えます。音を立て風を巻上げながら奔る野火を「地軸ゆすつて」と表現したことで壮大な阿蘇の山焼きと作者の感動の大きさが素直に伝わってきます。

わが輩通り賞

漱石の庭の夏木に天氣雨

東京都国分寺市 神野 純

入選

夕暮れの水路に翡翠滑り来る
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む

熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 野白 仁美
熊本県熊本市 坂口 美穂子

佳作

四時軒にけふは水馬訪ねけり
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む
亡き友や姿探しして梅畠
美少年瞳の奥の散る桜
春泥や十五で散つた田原坂
田原坂義に落ちゆくは桜かな
緑さすかの日も同じ田原坂
為朝の伝説の山鳥帰る

熊本県熊本市 後野 陽
熊本県熊本市 永野 偉大
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
愛知県蒲郡市 守屋 紀生
宮崎県宮崎市 横谷 昌子
熊本県熊本市 柳田 孝裕

令和六年 第二十六期くまもと俳句ポスト

「霏霏Ⅱ」編集事務局

西口 裕美子 選

特選

その中に要抱く羅漢冬ぬくし 熊本県合志市 高村 聖恵

【講評】

雲巖禪寺から靈巖洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見る事ができる。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこここに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」要を抱いたように見える羅漢様は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一旬。

わが輩通り賞

阿蘇五岳表も裏も小六月

熊本県熊本市 佐藤 誠吾

入選

コーラスの声澄む城趾球漫忌
猫座る漱石の家秋深し
西南の役の彈痕秋暑し

熊本県熊本市 山崎 綾子
熊本県熊本市 小山 稔子
岐阜県岐阜市 笠井 智子

佳作

蝉時雨八雲呼び立てる如く
冬日さす城の長堀鳩群れて
錦秋や小国に博士の顕微鏡
父の来し道をたどりし秋の島
名月に濡るる天守の甍かな
空港へ送り届けて夏終る
秋麗の旧居の庭猫闇歩せり
彼岸花に誘われ植木の湯に一日
吾になほ空蟬剥がす力あり
赤とんぼ息子を想う水前寺

熊本県熊本市 矢野 友子
熊本県熊本市 坂口 美穂子
熊本県熊本市 後野 陽
山梨県南都留郡 志賀 奈都
熊本県熊本市 芥川 韶
熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
熊本県宇城市 守屋 紀生
広島県広島市 横谷 昌子
福岡県春日市 柳田 孝裕

令和七年 第二十七期くまもと俳句ポスト

「ホトトギス」同人 山下 しげ人 選

特選

大阿蘇の地軸ゆすつて野火猛る 熊本県熊本市 佐藤 誠吾

【講評】

数週間にわたって行なわれる阿蘇の山焼きは、火の国熊本に春を告げる一大風物詩です。古代より続いている山焼きを目の当たりにすると誰しも言葉を失うほどの感動を覚えます。音を立て風を巻上げながら奔る野火を「地軸ゆすつて」と表現したことで壮大な阿蘇の山焼きと作者の感動の大きさが素直に伝わってきます。

わが輩通り賞

漱石の庭の夏木に天氣雨

東京都国分寺市 神野 純

入選

夕暮れの水路に翡翠滑り来る
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む

熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 野白 仁美
熊本県熊本市 坂口 美穂子

佳作

四時軒にけふは水馬訪ねけり
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む
亡き友や姿探しして梅畠
美少年瞳の奥の散る桜
春泥や十五で散つた田原坂
田原坂義に落ちゆくは桜かな
緑さすかの日も同じ田原坂
為朝の伝説の山鳥帰る

熊本県熊本市 後野 陽
熊本県熊本市 永野 偉大
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
愛知県蒲郡市 守屋 紀生
宮崎県宮崎市 横谷 昌子
熊本県熊本市 柳田 孝裕

令和六年 第二十六期くまもと俳句ポスト

「霏霏Ⅱ」編集事務局

西口 裕美子 選

特選

その中に要抱く羅漢冬ぬくし 熊本県合志市 高村 聖恵

【講評】

雲巖禪寺から靈巖洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見る事ができる。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこここに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」要を抱いたように見える羅漢様は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一旬。

わが輩通り賞

阿蘇五岳表も裏も小六月

熊本県熊本市 佐藤 誠吾

入選

コーラスの声澄む城趾球漫忌
猫座る漱石の家秋深し
西南の役の彈痕秋暑し

熊本県熊本市 山崎 綾子
熊本県熊本市 小山 稔子
岐阜県岐阜市 笠井 智子

佳作

蝉時雨八雲呼び立てる如く
冬日さす城の長堀鳩群れて
錦秋や小国に博士の顕微鏡
父の来し道をたどりし秋の島
名月に濡るる天守の甍かな
空港へ送り届けて夏終る
秋麗の旧居の庭猫闇歩せり
彼岸花に誘われ植木の湯に一日
吾になほ空蟬剥がす力あり
赤とんぼ息子を想う水前寺

熊本県熊本市 矢野 友子
熊本県熊本市 坂口 美穂子
熊本県熊本市 後野 陽
山梨県南都留郡 志賀 奈都
熊本県熊本市 芥川 韶
熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
熊本県宇城市 守屋 紀生
広島県広島市 横谷 昌子
福岡県春日市 柳田 孝裕

令和七年 第二十七期くまもと俳句ポスト

「ホトトギス」同人 山下 しげ人 選

特選

大阿蘇の地軸ゆすつて野火猛る 熊本県熊本市 佐藤 誠吾

【講評】

数週間にわたって行なわれる阿蘇の山焼きは、火の国熊本に春を告げる一大風物詩です。古代より続いている山焼きを目の当たりにすると誰しも言葉を失うほどの感動を覚えます。音を立て風を巻上げながら奔る野火を「地軸ゆすつて」と表現したことで壮大な阿蘇の山焼きと作者の感動の大きさが素直に伝わってきます。

わが輩通り賞

漱石の庭の夏木に天氣雨

東京都国分寺市 神野 純

入選

夕暮れの水路に翡翠滑り来る
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む

熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 野白 仁美
熊本県熊本市 坂口 美穂子

佳作

四時軒にけふは水馬訪ねけり
猫和む坪井の家には春日和
吟行の脚に嗜みつく江津湖の蚊
花合歎の彼方に舍利の塔望む
亡き友や姿探しして梅畠
美少年瞳の奥の散る桜
春泥や十五で散つた田原坂
田原坂義に落ちゆくは桜かな
緑さすかの日も同じ田原坂
為朝の伝説の山鳥帰る

熊本県熊本市 後野 陽
熊本県熊本市 永野 偉大
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
愛知県蒲郡市 守屋 紀生
宮崎県宮崎市 横谷 昌子
熊本県熊本市 柳田 孝裕

令和六年 第二十六期くまもと俳句ポスト

「霏霏Ⅱ」編集事務局

西口 裕美子 選

特選

その中に要抱く羅漢冬ぬくし 熊本県合志市 高村 聖恵

【講評】

雲巖禪寺から靈巖洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見る事ができる。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこここに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」要を抱いたように見える羅漢様は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一旬。

わが輩通り賞

阿蘇五岳表も裏も小六月

熊本県熊本市 佐藤 誠吾

入選

コーラスの声澄む城趾球漫忌
猫座る漱石の家秋深し
西南の役の彈痕秋暑し

熊本県熊本市 山崎 綾子
熊本県熊本市 小山 稔子
岐阜県岐阜市 笠井 智子

佳作

蝉時雨八雲呼び立てる如く
冬日さす城の長堀鳩群れて
錦秋や小国に博士の顕微鏡
父の来し道をたどりし秋の島
名月に濡るる天守の甍かな
空港へ送り届けて夏終る
秋麗の旧居の庭猫闇歩せり
彼岸花に誘われ植木の湯に一日
吾になほ空蟬剥がす力あり
赤とんぼ息子を想う水前寺

熊本県熊本市 矢野 友子
熊本県熊本市 坂口 美穂子
熊本県熊本市 後野 陽
山梨県南都留郡 志賀 奈都
熊本県熊本市 芥川 韶
熊本県熊本市 中村 和徳
熊本県熊本市 岩木 靖子
熊本県熊本市 干場 幸純
熊本県熊本市 德永 恵美子
熊本県熊本市 宇野 木邦子
熊本県熊本市 平山 繁嗣
熊本県宇城市 守屋 紀生
広島県広島市 横谷 昌子
福岡県春日市 柳田 孝裕

第30回「草枕」国際俳句大会

日時：令和7年11月15日(土) 13:00～16:00

会場：市民会館シーザーズホーム夢ホール（熊本市民会館）



大会名誉会長大西一史熊本市長挨拶



記念シンポジウム
(世界で愛される俳句—今なぜ地球俳句か)



事前投句一般部門大賞表彰式



外国語部門大賞 (Farah Ali, イギリス)



受賞者記念写真

応募者都道府県別集計

一般部門・インターネット投句部門 県別投句状況(ジュニアは全体数のみ)「草枕」国際俳句大会

県別	27回		27回 インターネット投句		28回		28回 インターネット投句		29回		29回 インターネット投句		30回		30回 インターネット投句	
	人数	句数	人数	句数												
北海道	3	16	0	0	2	4	1	2	5	12			2	4	3	5
青森県	0	0	0	0	0	0			0	0	1	2				
秋田県	1	4	0	0	1	2			0	0			2	6	1	2
岩手県	1	2	0	0	1	4			2	4			1	2	2	4
山形県	1	2	1	2	1	2	1	2	0	0	1	1	2	4		
宮城県	1	2	0	0	1	2			1	2			3	10	5	9
福島県	0	0	0	0	1	2	1	2	1	2	3	6			1	2
茨城県	1	2	0	0	1	4			1	4	1	2	1	2	5	10
栃木県	2	8	3	6	4	14	2	4	2	4	2	3	2	4	3	5
群馬県	2	4	3	5	4	16	2	4	3	10	2	4	2	4	2	4
埼玉県	12	34	13	26	11	24	4	8	7	22	4	8	7	20	10	18
千葉県	8	32	4	8	8	22	6	12	6	18	7	13	7	24	9	18
東京都	47	162	11	22	48	150	16	31	45	144	32	58	45	174	33	63
神奈川県	24	74	6	11	28	94	4	8	24	70	13	24	21	68	15	28
山梨県	0	0	2	3	0	0			0	0	1	2	1	2		
長野県	2	4	1	2	1	2	1	2	0	0	2	4	3	8	4	8
新潟県	0	0	4	8	0	0			0	0					1	2
富山県	0	0	1	2	0	0	1	2	0	0	2	4	1	2	2	4
石川県	0	0	1	2	0	0	1	2	1	2	2	4	1	2	2	4
福井県	0	0	1	2	0	0			0	0			3	12	2	4
静岡県	6	34	4	8	8	32	1	2	6	20	1	2	2	8	5	9
岐阜県	3	8	1	2	2	4	1	2	1	2	3	6			3	6
愛知県	8	18	11	21	6	14	2	4	5	12	5	8	9	22	10	19
三重県	2	6	3	6	1	4			3	6	5	10	3	8	2	3
滋賀県	0	0	2	4	3	8	3	6	1	2	2	4	3	12	5	10
大阪府	5	20	3	6	9	24	1	2	12	32	4	8	17	50	12	22
奈良県	1	2	1	2	3	8	1	2	2	6	2	4	2	8	2	3
和歌山県	0	0	2	3	0	0			2	6	3	6	1	2	3	6
京都府	3	18	0	0	3	8	4	6	11	52	3	5	5	20	5	9
兵庫県	12	30	3	6	9	20	4	8	12	30	9	18	10	24	10	19
岡山県	4	24	2	4	8	58	2	4	4	22	2	3	7	26	1	1
島根県	1	2	0	0	2	4	1	2	0	0	1	2			1	2
鳥取県													1	2		
広島県	3	10	3	6	4	14	3	5	4	18	2	4	3	12	2	4
山口県	4	14	1	2	3	10			3	16	1	1	5	18		
香川県	0	0	2	4	0	0			1	2	1	1	1	2		
愛媛県	4	10	0	0	3	8	2	4	6	18			4	18		
徳島県	1	2	0	0	2	4	1	2	1	2			2	4	2	4
高知県	1	2	0	0	0	0			0	0						
福岡県	39	162	9	17	37	150	11	22	40	164	17	31	45	170	19	36
佐賀県	3	12	0	0	2	6	1	2	3	10			3	12	1	2
長崎県	1	2	6	12	4	8	3	6	7	20	4	7	5	16	7	14
熊本県	278	1,054	72	143	253	960	69	135	290	1,026	71	137	264	944	74	142
大分県	13	52	1	2	11	42	3	6	12	52	2	4	9	36	3	6
宮崎県	10	44	2	4	9	32	1	2	9	46			6	32		
鹿児島県	8	28	1	2	7	28	3	6	5	20	4	8	5	20	3	5
沖縄県	3	12	0	0	2	8			2	8	1	2	2	8	1	1
海外	0	0	3	6	1	2	8	16	0	0	7	12			6	11
一般計	518	1,912	183	359	504	1,798	165	323	540	1,886	223	418	518	1,822	277	524
ジュニア計	1,098	1,912			1,638	2,628			1,612	2,467			1,759	2,735		
	小 378	639			小 343	594			小 190	323			小 180	306		
	中 679	1,210			中 667	945			中 870	1,291			中 646	875		
	高 41	63			高 628	1089			高 552	853			高 933	1554		

外国語部門 応募者国別集計

国名	第28回 (R5年)				第29回 (R6年)				第30回 (R7年)				国名	第28回 (R5年)				第29回 (R6年)				第30回 (R7年)			
	英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計		英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計
1 アメリカ合衆国	117	1		118	85	1	1	87	100			100	51 スウェーデン			0	1		1	2		2			
2 インド	39			39	38			38	49			49	52 台湾	2		1	3		0	1		1	2		
3 スペイン	2	46		48	1	61		62	2	41		43	53 ケニア	1		1			0	2		2			
4 日本	20			20	22		5	27	27	1	2	30	54 アイルランド	3		3	4		4	1		1			
5 クロアチア	33			33	25			25	30			30	55 南アフリカ			0	3		3	1		1			
6 イギリス	47	1		48	24	1		25	28			28	56 ウルグアイ		6	6	2		2	1		1			
7 アルゼンチン		22		22	1	41		42		23		23	57 マルタ	2		2	1		1	1		1			
8 ルーマニア	22	1		23	11	1		12	20	2		22	58 アルジェリア	1		1	1		1	1		1			
9 ポーランド	16			16	14	1		15	20	1		21	59 オーストリア			0	1		1	1		1			
10 イタリア	8			8	8	1		9	19			19	60 イスラエル	1		1			0	1		1			
11 フィリピン	26			26	12			12	16			16	61 アゼルバイジャン	1		1			0	1		1			
12 オーストラリア	8			8	10		1	11	16			16	62 ネバール	1		1			0	1		1			
13 メキシコ	1	14		15	1	21		22	1	14		15	63 ウズベキスタン	1		1			0	1		1			
14 カナダ	13		1	14	10		1	11	15			15	64 セントルシア			0			0	1		1			
15 グアム(USA)※	42			42	10			10	13		2	15	65 カザフスタン						1		1				
16 ニュージーランド	10			10	13			13	14			14	66 グアテマラ						1		1				
17 ドイツ	9	1		10	7	3		10	12	1		13	67 タジキスタン						1		1				
18 ブルガリア	11			11	13			13	12			12	68 デンマーク						1		1				
19 ナイジェリア	5			5	5			5	12			12	69 トリニダードトバコ						1		1				
20 セルビア	4			4	14			14	8		1	9	70 ノルウェー	1		1	3		3		0				
21 フランス	1	1		2		1		1	5	3		8	71 ボスニア・ヘルツェゴビナ	2		2	2		2		0				
22 スリランカ	4			4	2			2	7			7	72 エジプト	1		1	1		1		0				
23 キューバ		2		2	1	5		6		6		6	73 韓国	1		1	1		1		0				
24 ペルー		2		2		3		3	2	4		6	74 プエルトリコ		1	1	1		1		0				
25 香港※	1			1	2			2	6			6	75 パラグアイ		1	1	1		1		0				
26 中国			9	9	1		6	7	1		4	5	76 ラトビア		0	1			1		0				
27 ロシア	3		1	4	5		1	6	4		1	5	77 ポリビア		0	1			1		0				
28 オランダ	3			3	6			6	5			5	78 オマーン		0	1			1		0				
29 コロンビア	1		1	2	3		5		5		5	79 アンゴラ				1		1		0					
30 チリ	5		5		3		3		5		5	80 コスタリカ				1		1		0					
31 イラン	2			2	5			5	4			4	81 南スーダン			1			1		0				
32 トルコ	3			3	3			3	4			4	82 スロベニア	1		1			0		0				
33 ザンビア			0	1			1	4			4	83 キプロス	1		1			0		0					
34 マレーシア	4		2	6	12		2	14	2		1	3	84 ウクライナ	1		1			0		0				
35 インドネシア	4			4	4			4	3			3	85 タイ	1		1			0		0				
36 ベルギー	2			2	2			2	3			3	86 フィンランド	1		1			0		0				
37 ガーナ	1			1	1		1	2	3			3	87 バルバドス	1		1			0		0				
38 スイス	3			3	1			1	2	1		3	88 モロッコ	1		1			0		0				
39 パキスタン	2			2	1			1	3			3	89 ジンバブエ	1		1			0		0				
40 ギリシャ	1			1	1			1	3			3	90 リトニア	1		1			0		0				
41 ポルトガル		1	1		1		1	2	1		3	91 ジャマイカ			0			0		0					
42 チェコ			0	1			1	3			3	92 ドミニカ			0			0		0					
43 モンテネグロ	2			2	5			5	2			2	93 チュニジア			0			0		0				
44 ハンガリー	3			3	4			4	2			2	94 ニカラグア			0			0		0				
45 ブラジル	5	9		14	1	1		2	2			2	95 ジョージア			0			0		0				
46 ベネズエラ		2		2		2		2		2		2	96 エクアドル			0			0		0				
47 ベトナム	1			1	2			2	2			2	97 サウジアラビア			0			0		0				
48 アラブ首長国連邦	1			1	2			2	2			2	応募者数合計	510	117	14	641	413	156	18	587	511	113	13	637
49 シンガポール	2			2	1			1	1		1	2	応募句数	952	225	27	1204	771	298	36	1105	962	215	22	1199
50 バングラデシュ	2			2	1			1	2			2	国数	62	18	5	※71	57	22	8	※67	59	18	8	※67

※グアムは米国に、香港は中国に数えた

第30回「草枕」国際俳句大会報告

—グローカルな時代に—

第30回「草枕」国際俳句大会実行委員会会長 岩岡中正

かつての国際化や地域の時代は後退し、戦争と分断・対立の時代に入りました。この時代に国際俳句のもつ意味や俳句のユネスコ世界文化遺産登録の象徴的意義はいよいよ大きいと思います。

ただ、ユネスコ登録を行政レベルで進めることはもちろん第一ですが、同時に地域のいわば草の根から国際俳句の運動や気運も大切に、これをお互いが知ることも大事だと思います。つまり、俳句の世界文化遺産登録の運動は、地域的（ローカル）で国際的（グローバル）つまりグローカルな一人一人の意識と俳句を通しての「共生」の思いに支えられていると思います。そこで、多分全国で公私のレベルで行われているさまざまな国際俳句の活動のひとつとして、熊本の事例をお知らせします。

この大会は、熊本の俳人・中村汀女顕彰とともに、夏目漱石が熊本へ赴任して100年になるのを記念して1996（平成8）年に始まりました。本会は、漱石の留学体験もあって、国際俳句交流の実績を重ねてきており、11月15日の第30回記念大会の外国語部門では、世界の67の国や地域の637名から1199句の応募がありました。

〈シンポジウム〉

当日はまず第30回を記念し、「世界で愛される俳句—今なぜ地球俳句か」をテーマにシンポジウムを開催。いまこの時代、あらためて俳句創作のよろこびが世界をつなぐことについて話し合いました。

報告① 井上泰至（防衛大学校教授・日本伝統俳句協会会長）

漱石の俳句愛—「草枕」をめぐって

② 西川盛雄（熊本大学名誉教授）

今なぜ俳句が世界で愛されるか

—ハーンは俳句を世界へどう紹介したか

③ 井尻香代子（京都産業大学教授）

俳句の魅力—スペイン語圏の人々にとって

司会・岩岡中正（熊本大学名誉教授）

シンポジウムではまず、最近『夏目漱石の百句』を出版された井上氏より、漱石の熊本時代を舞台とする俳句的小説『草枕』を通して漱石の俳句愛とその普遍性について報告がありました。続いて、先年『俳句は国境を越えて—One Poem/One World』を出版された西川氏より、俳句の短さ、切れ、リアリズム、ヒューマニズム、リズム感やドラマ性などから俳句の地球的役割および世界への俳句の紹介者ハーンについて、さらにスペイン語ハイク研究の井尻氏より、俳句の「沈黙」、「身体性」、「共同性」、「市民の詩」などの特徴があげられ、最後に司会者が、今なぜ俳句が世界で愛されているかについてまとめました。

〈表彰式と作品〉

続く表彰式では、第30回を記念して草枕大賞に福田令寿賞=福田令寿氏は、1894（明治27）年にエディンバラ大学へ留学した産婦人科医で社会事業家、熊本市名誉市民=も贈られました。ただ、今年の受賞者のファラー・アリさん（イギリス）は来日がかなわなかつたため、画像とメッセージが届きました。

□「草枕」大賞

Farah Ali（イギリス）

famine

飢餓

empty pots spill

空の壺から溢れ出る

moonlight

月光

メッセージでアリさんは、自分が日々俳句をつくり小さな庭の自然に親しんでいて、娘にも将来つくってほしいこと、および飢餓で苦しむ紛争地域の人々、とりわけどの子も飢えたまま眠ることがないよう、祈りとしてこの作品をささげたいと述べておられます。

—記念大会で新しい試みも—

第30回「草枕」国際俳句大会実行委員会事務局長 高峰 武

第30回「草枕」国際俳句大会の表彰式（当日投句も含む）は2025年11月15日、熊本市中央区の市民会館シアーズホーム夢ホールに約250人が参加して行われました。

夏目漱石が第五高等学校の英語教師として熊本に降り立った1896（明治29）年から100年になるのを記念して1996（平成8）年にスタートした本大会も2025年には30回の節目の大会を迎えました。大会には夏目漱石顕彰とともに、熊本市名誉市民の俳人・中村汀女をしのび、俳句都市・熊本を国際的に発信するという目的もありますが、記念大会となった今年は新しい試みにも幾つか取り組みました。

その一つが外国語部門の大賞受賞者に福田令寿賞を贈ることです。福田令寿は宇城市出身で、1893(明治26)年、20歳で単身渡英、エジンバラ大学などで医学を学び、帰熊後は熊本の医療の発展や社会事業に取り組み、熊本市の名誉市民ともなりました。福田令寿賞は福田令寿の孫にあたる福田病院の福田稠理事長から寄金をいただき、大賞受賞者を熊本にお招きするものです。今回の受賞者のファラー・アリさん(英国)は残念ながら欠席となりましたが、心温まるメッセージをお寄せいただきました。

また、一般部門に(株)九州伝播から「二百十日賞」、ジュニア部門に舒文堂河島書店から「三四郎賞」をいただきました。これで『草枕』『二百十日』、『三四郎』と熊本ゆかりの作品が並ぶことになりました。

また記念シンポジウム「世界で愛される俳句 今なぜ地球俳句か」については、岩岡会長から上記に報告があつた通りです。

30回大会の特徴は各部門の参加者と入賞された方々が熊本県内はもとより県外に広がったことがあり、また外国語部門では英語による投句者が多かったことです。スペイン語、中国語による投句受け付けもこの大会が貴重な機会となっており、「国際」という冠がますます意味を持ってきたように思います。今後のご協力をよろしくお願い致します。

実績一覧と外国語部門の国別統計などもぜひご覧になって下さい。

部 門	応募者(人)	応募作品(句数)
事前投句一般部門	518	1,822
インターネット投句部門	277	524
ジュニア部門	小学校	180
	中学校	646
	高校生及び18歳以下	933
	(ジュニア部門合計)	(1,759)
外国語部門	637(67ヶ国)	1,199
当日投句部門	131	462
写真俳句部門	36	86
応募 合計	3,358	6,828

〈主 催〉「草枕」国際俳句大会実行委員会、熊本市

〈共 催〉熊本県文化協会、熊本日日新聞社、(一財)熊本市文化スポーツ財団

〈協 賛〉瑞鷹(株)、舒文堂河島書店、JAグループくまもと米づくり推進本部、

(株)お菓子の香梅、福井市、松山市、社会医療法人ましき会益城病院、

社会医療法人寿量会熊本機能病院、医療法人博麗会のぐち皮ふ科、友田皮ふ科医院

〈特別協賛〉社会医療法人愛育会福田病院、(株)九州伝播

〈後 援〉(一社)現代俳句協会、(公社)日本伝統俳句協会、(公社)俳人協会、国際俳句協会、

(一財)熊本公徳会、俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会、(一財)熊本市国際交流振興事業団、

RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791、熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、

くまもと漱石倶楽部、草枕ファン倶楽部

「草枕」の玉手箱

～入賞作品集～

令和8年(2026年)2月発行

編集・発行／「草枕」国際俳句大会実行委員会事務局

〒862-0942 熊本市東区江津2-28-77 高峰武方

Tel・Fax: 096-364-4510

Email: kusamakura-haiku@outlook.jp

草枕ホームページ: <http://kusamakura-haiku.jp/>



社会医療法人 愛育会 福田病院



地域周産期母子医療センター

産科・婦人科・小児科・新生児内科・乳腺外科・肛門外科・東洋医学漢方診療科
麻酔科(橋本正博)



〒860-0004 熊本市中央区新町2-2-6 TEL:096-322-2995



社会医療法人ましき会
益城病院
MASHIKI HOSPITAL

〒861-2232
上益城郡益城町馬水 123
☎096-286-3611

精神科・心療内科・小児科(児童思春期)・歯科

認知症・もの忘れ・うつ・不眠
アルコール問題・思春期の相談
児童こころの悩みなど

理事長：犬飼 邦明 院長：渡邊 信夫



伝統と風土が織りなす匠の酒

江戸時代末期
肥後の国川尻町で
酒造りを始めて
百六十年

清酒
「瑞鷹」
東肥
「赤酒」

くまもとの水と
くまもとの米
伝統のある
老舗の技で醸しだす
くまもとの地酒です。

こここのうるおい、醸します。
瑞鷹株式会社
熊本市南区川尻四丁目6-67 〒861-4115
TEL 096-357-9671 FAX 096-357-8963

飲酒は20歳になつてから。

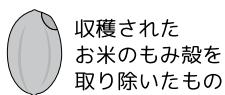


お米の豆知識

お米のいろいろな栄養素

ごはんには、炭水化物を中心に、たんぱく質やビタミン・ミネラル類など私たちが健康的な生活をするために必要な栄養素がたくさんつまっています。

玄米



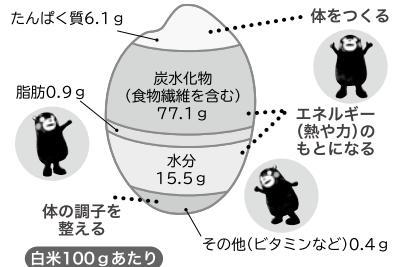
収穫された
お米のもみ殻を
取り除いたもの

精白米



玄米からぬかと胚芽を取り除いたもの
給食のお米は精白米

お米のおもな成分とその働き



JAグループ熊本 くまもと売れる米づくり推進本部

くまもとのお米

検索



KUMAMOTO
KINOH
HOSPITAL

社会医療法人 寿量会

24時間救急

熊本機能病院

(財)日本医療機能評価機構認定医療機関

〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8番1号 TEL.096-345-8111 FAX.096-345-8188

会長・総院長
米満 弘之
理事長
米満 弘一郎
院長
寺本 憲市郎



併設施設

- ◇ 介護老人保健施設 清雅苑
- ◇ ホームケアサポートセンター
- ◇ 指定運動療法施設 熊本健康・体力づくりセンター
- ◇ 熊本加齢医学研究所
- ◇ 地域交流館
- ◇ 熊本市北3地域包括支援センター
- ◇ 機能デイトレ
- ◇ 熊本園域地域リハビリテーション
- ◇ 広域支援センター
- ◇ なないろ森の保育園

診療科

- 整形外科
- 形成外科
- 小児形成外科
- 救急科
- 外科
- リウマチ科
- 脳神経内科
- リハビリテーション科
- 脳神経外科
- 内科
- 循環器内科
- 血管外科
- 放射線科
- 皮膚科
- 麻酔科 (今泉隆志)
- 耳鼻咽喉科
- 消化器外科

友田皮ふ科医院

院長 友田哲郎

〒861-1112 熊本県合志市幾久富 1909-964

096-248-6211

